

これ知っコ!

らいとぴあ21
セミナー企画

「チョコレートケーキと法隆寺」 映画上映&監督トークショー

児童養護施設で育つ子どもは
18歳で退所し、その後自立して
一人で生きていかなければなり
ません。

見過ごしていたかもしれない
その現実には、監督のカメラを
通して私たちも焦点をあてて
みます。

「チョコレートケーキと法隆寺」
は、児童養護施設で育った監督

——一人で生きていかなければ
ならない——

がかつての仲間を訪ねるドキュ
メンタリームービーです。

映画の中の彼らに限らず、頼れ
る何かをもたないままに生きて

映画の中で描かれているのは、
それぞれの問題にひとりで向き
合いながら、自立しようと懸命
に生きる若い彼らの生々しい
ほどにリアルな姿。

いる若者は世の中にたくさんい
ます。これを個人の問題ではな
く社会の問題として、地域で働
く私たちが暮らすみなさんと
一緒に考えてみたいと思います。



2017年12月17日(日) pm 2:00-4:00

らいとぴあ21・3階 視聴覚室

参加無料 / 要申込 / 定員 50 名

一時保育あり *12月10日(日)までに申し込みが必要です。





pm 2時上映開始(59分)

上映後、向井監督のお話があります。
残りの時間で、らいとぴあ21のスタッフもまじえて
会場全体で考える時間に行いたいと思います。



監督 向井啓太 / 2015 / デジタル / カラー / 59分
撮影・編集・録音：向井啓太
出演：聖矢、陽介、智美

監督 向井啓太 むかいけいた

1991年奈良県生まれ。
児童養護施設での生活を経て、中高時代は、父親とともに奈良で過ごす。慶應義塾大学総合政策学部進学後、NPOで施設の子どもたちへの学習支援を行いながらカメラに興味を持ち、藤田ゼミでドキュメンタリー制作を学ぶ。大学卒業後、就職し、仕事の傍ら、本作品の上映、講演等の活動を行っている。



作品について

児童養護施設の子どもたちは18歳の春を迎えると退所し、経済的に自立して一人で生きていかなければならない。
5歳から12歳まで施設で育った監督は、お互いに助け合って生きてきたかつての仲間を訪ねる。彼らは退所してからも家族の問題に一人で向き合いながら、自立しようと懸命に生きていた。監督にとってかつての仲間達に出会う旅とは、封印

facebook <https://www.facebook.com/chocohouruji>

してきた自らの過去に向かい合うことでもあった。施設の出身の監督による初めての映画であり、異なる立場から自らの施設の人生と施設の子供達のその後を描き出した。

第4回「なら国際映画祭」にて観客賞受賞、第7回「座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」で第2位(奨励賞)に選ばれるなど、高い評価を受けている作品。

駐車場に限りがございますので、ご来館には公共交通機関等をご利用ください。

■お申し込み・お問い合わせ

らいとぴあ21 / 072-722-7400

■主催 / らいとぴあ21(箕面市立萱野中央人権文化センター)

らいとぴあ21 ブログ

<http://raipinews.seesaa.net/>



らいとぴあ21(大阪府箕面市萱野1-19-4)